法政大学学術機関リポジトリ
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2025-07-04

遺産相続ニ関スル理由書草稿

(発行年 / Year)
1910

遺産相續ニ關スル理由書草稿

法典調査會

第二章　遺産相續

（理由）本章ハ既成法典財産取得編第十三第二節ニ相當スト雖モ既成法典ハ單ニ遺言相續人ノ順位ヲ指定スルニ止マリ別ニ遺産相續人ノ缺格及ヒ廢除ニ關シ殊ニ遺産相續ノ効力ニ關シテ何等ノ規定ヲ設ケサルハ其缺點トスヘキサルベカラサルニ因リ本案ハ新ニ多數ノ規定ヲ增加シテ之ヲ補充シ且本案ハ後ニ各本條ニ就テ說明スル如ク遺産相續ニ付テハ財産ノ分割主義ヲ採用シタルニ因リ各相續人ノ相續分其他遺産ノ分割等ニ關シ新ニ多數ノ條項ヲ掲クルニ至レリ故ニ本案ハ本章ヲ分チテ三節トシ總則以外ニ遺産相

法典調査會

續人及ヒ遺産相續ノ効力ニ関シテ各一節ヲ設ケ之ニ依リテ遺産相續ノ規定ヲシテ完全ナラシメタリ

第一節 總則

(理由) 本節ハ遺産相續開始ノ原因、時期及ヒ場所ニ関シ並ニ遺産相續回復ノ請求權ニ對スル特別時效ニ関シテ一般ノ通則ヲ掲クルモノニシテ既ニ家督相續ニ関シテ其總則ヲ規定シタル例ニ從フモノトス

第九百九十六條

(理由) 既成法典財産取得編第三百十二條ハ遺産相續ノ意義ヲ示スニ過キスト雖モ本案

法典調査會

ハ聊カ之ニ字句ノ修正ヲ加ヘ之ニ依リテ遺
産相續開始ノ原因及ヒ其時期ヲ明白ナラシ
メタリ

第九百九十七條

（理由）本條ハ既成法典ニ其例ナシト雖モ遺
産相續開始ノ地ヲ確定セルニ非サレハ遺産
相續ニ関スル裁判管轄其他公告登記ノ場所
等ヲ定ムルニ付キ其標準ヲ求ムルコト能ハ
ス又遺産相續回復ノ請求權ノ如キモ適當ノ
時期ニ之ヲ消滅セシムルニ非サレハ不確定
ノ法律関係ヲ永ク存續セシムルノ餘公私ノ
利益ヲ害スルノ弊ヲ免レサルニ因リ本條ハ

法典調査會

遺産相續開始ノ地ニ関シテハ第九百七十一條第二項ノ規定ヲ準用シテ被相續人ノ住所ヲ以テ其標準トシ又遺産相續回復ノ請求權ニ付テハ第九百七十條ノ規定ヲ準用シテ此權利ハ相續人又ハ其法定代理人カ相續權侵害ノ事實ヲ知リタル時ヨリ五年間又相續開始ノ時ヨリ二十年間之ヲ行ハサルニ因リテ消滅スルモノトスヘシ

法典調査會

第二節　遺産相續人

（理由）本節ハ遺産相續人ノ資格順位、缺格及ヒ廢除ニ関スル規定ヲ網羅スルモノニシテ既ニ家督相續人ニ関シテ採用シタル立法ノ

躰裁ニ從フモノトス而シテ其規定ノ實質上ニ於テ既成法典ヲ修正增補シタル所ハ各本條ニ就テ之ヲ說明スベシ

第九百九十八條

(理由) 本條ハ被相續人ノ直系卑屬間ニ於ケル相續ノ順位ヲ規定スルモノニシテ既成法典財產取得編第三百十三條ノ前段及ヒ第三百十四條ニ修正ヲ加ヘタリ即チ既成法典ハ被相續人タル家族ト家ヲ同フスル此者ノ卑屬親ニ限リテ遺產相續ヲ爲スコトヲ得ルモノト定メタルハ主トシテ婚姻又ハ緣組ニ因リテ既ニ他家ニ入リタル者若クハ既ニ獨立

ノ生計ヲ營ム者ノ如キハ概子皆相當ノ資産ヲ分與セラレタルモノナレハ再ヒ遺産相續ノ利益ヲ受ケシムル必要ナク且家族ト家ヲ同フスル此者ノ卑屬親ニ限リテ遺産相續ヲ為サシムルコトハ實際上ノ煩雜ヲ避ケ併セテ族制ノ主旨ニ適セシムルコトヲ得ト認メタルニ因ル モノナレハ然レトモ家族ノ遺産相續ハ族制ト何等ノ關係ヲ有セサルハ勿論ニシテ且既ニ他家ニ入リ又ハ獨立ノ生計ヲ營ム卑屬親ハ必スシモ相當ノ資産ヲ分與セラレタルニ限ラサルモノナレハ遺産相續ニ關シ其利益ヲ受クヘキ卑屬親ノ範圍ヲ限

定シ被相續人ト家ヲ同フスル者ニ限ルハ其
理由ナキノミナラス實際ノ事情ニ適セサル
モノト曰ハサルベカラス殊ニ本案ハ後ニ說
明スル如ク遺産相續ニ付テハ財産ノ分割主
義ヲ採用シ且各相續人ノ相續分ヲ定ムルニ
付キ極メテ公平ナル規定ヲ設クルモノナレ
ハ改成法典ノ如ク遺産相續人タルベキ卑屬
親ノ範圍ヲ限定スル必要ナシトス是レ即チ
本案カ被相續人ノ直系卑屬ハ総テ本條ノ規
定ニ從ヒ遺産相續人タルコトヲ得ベキモノ
トセシタル所以ナリ
次ニ直系卑屬間ニ於ケル相續ノ順位ニ付テ

法典調査會

ハ既成法典財産取得編第三百十四條ハ家督相續人ノ順位ニ関スル第二百九十五條ノ規定ヲ遺産相續ニ適用スルモノニシテ親等ノ異ナリタル者ノ間ニ於テ其近キ者ヲ先ニスル點ニ付テハ本條第一號モ亦固ヨリ既成法典ト同一ノ趣旨ニ從フト雖モ親等ノ同シキ者ノ間ニ於ケル相續ノ順位ニ付キ既成法典ノ如ク家督相續ノ順位ニ関スル規定ヲ遺産相續ニ適用シ之カ為メニ男女長幼嫡庶等ノ區別ニ因リ或直系卑属ヲシテ遺産相續ノ利益ヲ受クルコト能ハサラシムル如キハ只ニ其理由ナキノミナラス人情ニ反シ實際ニ適

セサル規定ト曰ハサルベカラス何トナレハ
遺産相續ハ族制ト何等ノ関係ヲ有セサルモ
ノナレハ家督相續ノ如ク其相續人ヲ一人ニ
限定シ且男女、長幼、嫡庶ノ區別ニ從フテ相續
ノ順位ヲ定メシムベキ必要ナク寧ロ總テノ
卑屬親ヲシテ遺産ノ分割ヲ受ケシムルコト

法典調査會

ハ親子ノ情愛ニ適シ既律保護ノ公平ヲ得タ
ルモノトスハサルベカラサルハナリ故ニ本
案ハ遺産相續ニ付テハ分割主義ヲ採用シテ
遺産ハ總卑屬親中ニ分配セラルベキモノト
シ即チ本條第二項ニ於テ親等ノ同シキ者ハ
同順位ニ於テ遺産相續人ト為ルベキ旨ヲ明

示スル モノニシテ遺産相續ノ利益ヲ受クル
點ニ於テハ敢テ卑屬親ノ男女長幼、嫡庶其他
家ニ在ルト否トヲ問ハスト雖モ遺産分割ノ
公平ヲ分チ一般ノ人情慣習ニ適セシムル為
メ本章第三節第二款ニ於テ特ニ相續分ニ関
スル規定ヲ設ケ各卑屬親ノ相續分ヲ適當ニ

法典調査會

指定スルモノトス

第九百九十九條

(理由) 相續人タルヘキ者カ相續ノ開始前ニ
死亡シ又ハ其相續權ヲ失ヒタルトキハ此者
ノ現在ノ直系卑屬カ前者ト同順位ニ於テ相
續人ト為リ得ヘキコトハ既ニ家督相續ニ関

シテ採用シタル立法主義ニシテ既成法典財
産取得編第三百十四條モ亦家督相續ニ關シ
テ右ノ趣旨ヲ明示シタル第二百九十五條第
二項ノ規定ヲ遺産相續ニ適用スベキモノト
為セリ故ニ本條ハ其趣旨ニ於テ敢テ既成法
典ト異ナル所ナク只同財産取得編第二百九
十五條第二項ノ字句ヲ修正シテ遺産相續ニ
關スル獨立ノ一條文ト為シタルニ過キス

第千條

（理由）本條ハ遺産相續ニ付キ被相續人ノ直
系卑屬ナキ場合ニ於ケル相續人ノ順位ヲ指
定スルモノニシテ既成法典財産取得編第三

百十三條後段ノ規定ニ修正ヲ加ヘタリ即チ
改成法典カ被相續人ノ卑屬親ナキ場合ニ於
テ配偶者カ之ヲ第一順位ニ於テ相續セシム
ルコトハ其者カ得タリト雖モ配偶者ナキ場
合ニ於テ直チニ戸主カ之ヲ相續セシメ被相
續人ノ直系尊屬ノ相續權ヲ認メサルハ頗ル
人情ニ反シ立法上ノ標準ニ於キ那カ其当ヲ
失フモノトシハサルベカラス何トナレハ遺
産相續ノ利益ヲ受クベキカノ範圍ヲ定ムル
ニ當リテハ宜シク被相續人ト相續人トハ
キ名トノ関係ノ親疎ヲ酌勘セサルベカラサ
ルモノニシテ被相續人ノ直系尊屬ニシテ相

法典調査會

緣組ヲ有セシムルコトハ兩者ノ關係上當サニ認ムベキ所ニシテ且被相續人ノ意思ニ適スルモノトスルハサルベカラザルノミナラス被相續人ノ配偶者ナキ場合ニ於テ直チニ戶主ヲシテ相續セシムルハ寧ロ直系尊屬ヲシテ之ニ先タチテ相續セシムルハノ至當ニシテ且實際ノ事情ニ適スルヲ疑ハサシムナリ故ニ本條ハ前二條ノ規定ニ依リテ相續人タルヘキ者ナキトキハ配偶者直系尊屬及ヒ戶主カ此順位ニ從フヲ選擇相續ヲ爲スコトヲ得トシ之ニ依リテ直系尊屬ノ利益ヲ適當ニ保護セリ

本條第二項ハ直系尊屬間ニ於ケル遺産相續ノ順位ヲ指定スルモノニシテ第一項ニ於テ直系尊屬ノ相續權ヲ認メタル當然ノ結果タルベシ

第千一條

理由　本條ハ遺産相續人ノ缺格ニ關スル規定ニシテ家督相續人ノ缺格ニ關スル第九百七十八條ノ例ニ從フモノトス蓋シ遺産相續ノ場合ニ於テハ第九百七十八條第一號ニ掲クル如キ家督相續ノ特質ニ基ク所ノ缺格ノ事由ヲ存セサルコトハ更ニ辯明ヲ要セサル所ナリト雖モ德義上ノ理由ニ基キ或ハ被相

法典調査會

續人ノ意思ヲ斟酌シ其他法律保護ノ適正ヲ保タントスル趣旨ニ基キ遺産相續ノ利益ヲ受ケシムヘキ者ノ資格ヲ顧察スルトキハ第九百七十八條第二號以下ニ列擧スル所ノ家督相續人缺格ノ事由ト同一ノ事情ノ存スル場合ニ於テハ亦條遺産相續ノ利益ヲ受クヘキ者ト雖モ相續人タルコトヲ得サラシムルヲ以テ至當トスル之レ本案ハ既成法典ニ其例ナキモノ雖モ從來ノ慣例其他多數ノ立法例ニ倣ヒ特ニ本條ノ規定ヲ設ケタル所以ニシテ家督相續人ノ缺格ニ關スル第九百七十八條第二號以下ノ規定ハ終ニ之ヲ遺産相續人ノ

鈇橋ニ準用スルコトヲ得ベシト雖モ遺産相續ノ場合ニ於テハ同順位ニ於テ相續人タルベキ者ノ數人存スルコト多ク從テ此等ノ者ノ間ニ於テ致死ニ関スル犯罪ヲ為スコトアルヲ以テ特ニ本條第一項ノ規定ヲ掲載セリ

第千二條

法典調査會

理由　本條乃至千五條ハ遺産相續人ノ廢除及ビ其取消ニ関スル規定ニシテ既成法典ニ其例ナシト雖モ既ニ家督相續人ノ廢除及ビ其取消ヲ認メシ以上ハ遺産相續人ニ付テモ之ヲ禁スル理由ナキノミナラス速ニ上ノ理由並ニ被相續人ノ意思ヲ斟酌スルトキハ遺産

相續人ノ廢除及ビ其取消ヲ為サシムベカラサルニ因リ本案ハ特ニ本條以下數條ノ規定ヲ設ケテ以テ実際ノ事情ニ適セシメタリ然レトモ元来自己ノ財産ハ遺留分ノ規定ニ抵触セサル限ハ何人ト雖モ随意ニ之ヲ處分スルコトヲ得ヘキモノニシテ法律上必スシモ之ヲ推定遺産相續人ニ與ヘシムヘキ理由ナキモノナレハ被相續人カ其推定遺産相續人ヲ廢除シテ他人ニ自己ノ財産ヲ相續セシムルコトハ固ヨリ被相續人ノ自由タルヘシト雖モ推定遺産相續人カ被相續人ヨリ遺留分ヲ受クヘキ者ナルトキハ被相續

法典調査會

人ハ隆意ニ斯ノ如キ相續人ヲ廢除シテ濫リニ此者ヲシテ遺留分ノ利益ヲ失ハシムルコトヲ得ス義ニ若シサシハ法律カ特ニ遺留分ノ制度ヲ設ケテ遺留分權利者ノ利益ヲ保護スハ趣旨ニ反スルニ至ルヲ故ニ推定遺產相續人ノ廢除ニ關シテ特ニ規定ヲ要スル場合ハ遺留分ヲ有スル推定遺產相續人ノ廢除ニ關スルモノニシテ假令此者カ法律上遺留分ノ利益ヲ受クベキ者タリトモ被相續人ニ對シテ虛偽ヲ為シ又ハ之ニ重大ナル侮辱ヲ加ヘタルニ於テハ被相續人ヲシテ斯ノ如キ相續人ヲ廢除スルコトヲ得セシムルニ付キ立

法典調査會

法上充分ノ理由アリトスルベシ是レ即チ本
條ハ家督相續人廃除ノ場合ニ於ケル如ク被
相續人ニ對スル虚偽又ハ重大ナル侮辱ノ理
由トシテ遺留分ヲ剥奪スル推定遺産相續人ヲ
廃除スルコトヲ得セシムル所以ナリト至モ
之ニ依リテ相續人ヲシテ遺留分ノ利益ヲモ
失ハシムルモノナレハ右ノ廃除ハ裁判所ニ
請求シテ之ヲ行ハシムルモノト為セリ

法典調査會

其他推定遺産相續人ノ廃除ハ必スシモ被相
續人カ直接ニ之ヲ請求スルコトヲ要スルニ
限ラスシテ遺言ヲ以テ廃除ノ意思ヲ表示ス
ルコトヲ得ヘキハ勿論タルニ因リ本條第二

項ハ右ノ場合ニ於テハ遺言ノ効ヲ家督相續人廃除ノ意思ノ表示シタル場合ニ関スル第九百七十九條ノ規定ノ準用シ遺言執行者ノシテ遺言ノ効力発生後遅滞ナク廃除ノ請求ヲ為サシムベキ旨ヲ明カニセリ

第千三條

法典調査會

理由　本條ハ推定遺産相續人ノ廃除ニ関スル裁判ノ確定前ニ被相續人カ死亡シタル場合ニ於テ其遺産ノ管理ニ関スル特別規定ニシテ家督相續人廃除ノ場合ニ対スル第九百八十一條ノ規定ト同一ノ趣旨ニ基ツクモノナレハ再ヒ之ヲ說明セスト雖モ本條ノ場合ニ於

テ第九百八十一條ノ規定ニ準用スルコトヲ
得サルハ遺産相續ノ場合ニ在リテハ戸主權
ノ行使ニ付キ何等ノ關係ヲ有セサレバナリ
第千四條
（理由）推定遺産相續人廢除ノ理由ハ被相續
人カ虐待又ハ重大ナル侮辱ヲ受ケタルコト
ニ存シ主トシテ被相續人ノ意思ニ基ク酌ニシテ
之ヲ定メタルモノナレハ此ニカカル惡行ヲ
宥恕スルニ於テハ強テ推定遺産相續人ヲ
シテ相續權ヲ失ハシムベキ必要ナシ且ツ第
千六條ハ家督相續人廢除ノ取消ニ關スルモノ
九百八十條第二項ノ例ニ倣ヒ被相續人ヲシ

法典調査會

ヲ何時ニテモ推定遺産相續人ノ廃除ノ取消ヲ請求スルコトヲ得セシメタル所以ナリ

第千五條

理由　本條ハ遺言ヲ以テ推定遺産相續人ノ廃除ヲ取消シタル場合ニ於テハ遺言執行者ノ義務ヲ規定スルモノニシテ家督相續人廃除ノ取消ニ関スル第九百八十四條ト同一ノ趣旨ニ基ツクモノナレハ再ヒ之ヲ説明セス

第千六條

理由　本條ハ遺産相續ニ関シテ胎児ノ利益ヲ保護スル特別規定ニシテ其趣旨ニ於テハ既成法典人事編第二條ト敢テ異ナルコトナ

法典調査會

ニ只本案ハ既成法典同條ノ如ク胎児ノ利益ヲ保護スルニ付キ概括的ノ規定ヲ掲ケスシテ各ノ場合ニ就キ其趣旨ヲ明示スル主義ヲ採用シタルニ因リ還産相續ニ付テモ特ニ本條ノ規定ヲ設ケ既ニ家督相續人ニ関シテ胎児ノ相續權ヲ認メタル第九百七十二條ノ規定ヲ還産相續人ニ準用スベキ旨ヲ明カニセリ

法典調査會

第三節　遺産相續ノ効力

（理由）既成法典ハ遺産相續ノ効力ニ関シテ別ニ何等ノ規定ヲ設ケス蓋シ既成法典ハ遺産相續ニ付テモ家督相續ノ如ク一人相續ノ

主義ニ從ヒタルニ因リ殊更ニ遺産相續ノ效力ニ關シテ詳細ナル規定ヲ設クル必要ナカリシト雖モ本案ノ如ク遺産相續ニ付キ共同相續ノ主義ヲ採用シタル以上ハ各相續人ノ相續分其他遺産ノ分割等ニ關シ適当ノ規定ヲ設クルコトヲ要スル人為ノ結果トシテ

且假令共同相續ノ効力ノ発生其他範囲等ニ関シテハ一般ノ通則ヲ定ムルコトヲ要スル故ニ本案ハ特ニ本節ノ表題ヲ掲ケ遺産相續ノ一般ノ效力ノ外相續分及ヒ遺産ノ分割ニ付キ各一款ヲ設ケ遺産相續ノ効力ニ関スル必要ノ規定ヲ掲載セリ

第一款　總則

（理由）本款ハ遺産相續ニ因リテ相續人ハ如何ナル範圍ニ於テ被相續人ノ權利義務ヲ承繼スルカ又數人ノ相續人アルトキハ其間ノ財産關係及ビ各自承繼スル權利義務ノ分量ハ如何ニ之ヲ定ムベキカニ付キ一般ノ通則ヲ掲ケルモノニシテ即チ遺産相續ノ一般ノ效力ヲ規定セリ

第千七條

（理由）本條ハ遺産相續ノ範圍及ビ其效力発生ノ時期ヲ明示スルモノニシテ既ニ家督相續ノ効力ニ関シテ規定シタル第九條乃至第十九

法典調査會

條及ビ第九百九十五條ト同一ノ趣旨ニ基ク
モノトス只遺産相續ハ財産権以外ニ其効力
ヲ及ホスヤキモノニ非サレハ本條ハ特ニ相
續人カ被相續人ノ財産ニ属セル一切ノ権利
義務ヲ承継スベキ旨ヲ明カナラシメタルニ
過キス

法典調査會

第千八條

〔理由〕遺産相續人カ一人ナルトキハ此者ト
相續財産ノ所有権トノ関係ニ付キ別ニ規定
ヲ要セスト雖モ遺産相續人カ數人ナルトキ
ハ遺産カ分割セラルルニ至ルマテハ此等相
續人カ相續財産ニ對シ相互ニ如何ナル関係

ヲ保ツモノナルカニ付キ豫メ規定ヲ設クル
コトヲ要又何トナレハ相續財産ノ所有權ハ
相續ノ開始ニ因リテ直チニ相續人ニ移轉ス
ベシト雖モ數人ノ相續人アルトキハ各相續
人ハ相續財産ノ全部ノ所有權ヲ取得スルコ
トヲ得サルニ因リ此場合ニ於テハ相續人ト

相續財産トノ關係ニ付キ理論上疑ヲ生セ
ムルノミナラス相續財産ノ分割セラルルニ
至ルマテハ之ニ對スル各相續人ノ使用處分
ノ權限等ニ關シ種々ノ疑ヲ生セシムベナ
リ今之ヲ諸國ノ立法例ニ徴スルニ遺産相續
ニ付キ分割主義ヲ採用シタルハ以上ハ遺産相

續人カ數人アル場合ニ於テ相續財産ヲ以テ
一旦總相續人ノ共有ニ屬セシムルコトハ弥
ント一徹ニシテ且相續財産ノ分割セラルル
マデハ之ニ共有ノ規定ヲ適用セシムルヲ以
テ最モ實際上ノ必要便宜ニ適スルコトヲ得
ルモノトス故ニ本案ニ於テ相續財産ハ一旦數
人ノ遺産相續人ノ共有ニ屬スルモノトシ之ニ
依リテ理論上並ニ實際上ノ疑議ヲ生スルコ
ト勿カラシメタリ

第千九條

（理由）本條ハ數人ノ遺産相續人アル場合ニ
於テ各相續人カ被相續人ノ權利義務ヲ承繼

スル割合及ビ其効果ヲ規定セリ蓋シ共同相續ノ場合ニ於テ各相續人カ承継スル権利義務ノ割合ハ各自ノ相續分ニ応シテ其標準ト為スヘキハ當然ナリト雖モ共同相續人ハ被相續人ヨリ承継シタル債務ニ付キ連帯ノ責任ヲ負フヘキカ將タ分擔シテ其責ニ任スル

法典調査會

ルヲ以テ足レリト為スヘキカニ付キ諸國ノ立法例ハ一ニ帰セス而シテ二ニノ立法例ニ依レハ分擔主義ヲ本則トシテ別ニ各相續人ヲシテ債務ノ全部ニ付キ担保ノ責ニ任セシムト雖モ多數ノ立法例ハ概ネ連帯主義ヲ採用セルモノノ如シ蓋シ此等ノ立法主義ハ

債権者ノ利益ヲ保護セントスル趣旨ニ基リ
モノニシテ固ヨリ相當ノ理由ヲ有スト雖モ
之カ為メニ共同相續人ヲシテ往々意外ノ損
害ヲ被ムラシムルニ至ルハ當然ノ結果ニシ
テ法律保護ノ公平ヲ失スルモノトミハサル
ヘカラス故ニ本案ハ齎事者ノ意思ニ基リ
非サレハ法律上當リニ連帶ノ責任ヲ推定セ
サル立法主義ニ従ヒ敢ニ共有其他組合等ノ
法律関係ニ付キ敢テ連帶ノ責任ヲ生セシメ
サリシニ因リ本條ニ於テモ亦断然分擔主義
ヲ採用シ各共同相續人ハ其相續分ニ應シテ
被相續人ノ権利義務ヲ承継スルニ止マリ其

法典調査會

間ニ連帯ノ関係ヲ生セサシヲ助カナラシメ
ムル

第二款

（理由）遺産相續ニ付キ既ニ分割主義ヲ採用シタル以上ハ各共同相續人カ如何ナル割合ヲ以テ分割ニ加ハルコトヲ得ベキカ或ハ共同相續人中既ニ被相續人ヨリ遺贈又ハ贈与ヲ受ケタル者アルトキハ遺産分割ノ公平ヲ保ツ為メ如何ナル方法ニ依ルベキカノ如キ事項ニ付テハ法律上豫メ適當ノ準則ヲ指定スルコトヲ要スル且ツ即チ本案ハ各共同相續人ノ相續分ニ関シ特ニ本款ノ規定ヲ設クル

法典調査會

所以ナリ

第千十條

理由　法律上ニ於テハ共同相續人ノ相續分ヲ指定スルニ當リテハ主トシテ被相續人ト相續人トノ情愛ヲ斟酌シ且務メテ公平ヲ失ハサランコトヲ要スル而シテ同順位ノ相續人

法典調査會

數人アル場合ニ於テハ各相續人ニ對スル被相續人ノ情愛ハ敢テ差異ナシト認ムベキハ至當ニシテ且平分主義ハ分割上最モ公平ノ標準タルコトハ別ニ言フヲ要セサル所トス故ニ本條ハ諸國考慮ノ立法例ニ從ヒ同順位ノ共同相續人間ニ於ケル各自ノ相續分ハ相

均ミキモノト為スト雖モ直系親属数人アル場合ニ於テ庶子及ヒ私生子ノ相続分モ亦嫡生子ノ相続分ト同一ト為スニ於テハ正當ノ婚姻ニ因リテ生マレタルニ非サル者ノ利益ヲ保護スルニ失シ一般ノ人情ニ適セサルノミナラス庶子及ヒ私生子カ利益ヲ受クル點ニ於テ嫡生子ニ及ハサルコトハ古来慣例上普通ノ狀態タルニ因リ本條ハ特ニ但書ノ規定ヲ設ケ嫡生子ノ外庶子又ハ私生子アル場合ニ於テハ庶子及ヒ私生子ノ相続分ハ嫡生子ノ相続分ノ二分ノ一ニ止マルモノト為セリ

第千十一條

（理由）第九百九十九條ハ相續ノ開始前ニ相續人ノ一人又ハ數人カ死亡シ若クハ其相續權ヲ失ヒタル場合ニ於テ此等ノ直系卑屬カ遺産相續人ト為リ得ベキコト及ビ其相續ノ順位ヲ指定スルモノニシテ本條ハ即チ此直系卑屬カ受クベキ相屬分ヲ定ムルモノトス而シテ若シ左ノ直系卑屬カ一人ナルトキハ此等カ直チニ其直系尊屬ノ受クベカリシ相續分ヲ承繼スベキハ勿論ニシテ若シ直系卑屬カ數人アルトキハ此等ノ者カ共同シテ其直系尊屬ノ受クベカリシ相續分ヲ承繼スベ

法典調査會

キハ當然ノ事理タルベシ故ニ本條ハ第九百
九十九條ノ規定ニ依リテ相續人タル直系卑
屬ノ相續分ハ常ニ其直系尊屬ノ受クベカリ
シモノニ因ミキ肯ヲ明示シ且直系卑屬カ數
人アル場合ニ於テハ其間ニ於ケル各相續分
ハ如何ニシテ定ムベキカニ付キ疑ヲ生セシ
ムルコトナシトセサルニ因リ本條ハ特ニ但
書ノ規定ヲ設ケ右ノ場合ニ於テハ第千十條
ノ規定ニ從ヒ公平ニ且人情及ヒ慣習ニ適シ
テ各直系卑屬ノ相續分ヲ分タシムルモノト
為セリ

第千十二條

法典調査會

理由　抑モ法律カ豫メ相續分ノ指定スルコトヲ之ニ依リテ被相續人ノ財産處分ノ自由ヲ拘束シ又其各相續人ニ對スル被相續人ノ愛情ノ關係ヲ妨ケントスルモノニ非ス寧ロ此者ノ意思ヲ重ンシ一般ノ人情ヲ財産的ニテ相續分ニ關スル準則ヲ設ケタルニ過キサル

法典調査會

モノナレハ被相續人カ自ラ共同相續人ノ相續分ヲ定ムルコトハ法律上敢テ之ヲ禁スルハ理由ナリ又被相續人カ敢ニ自ラ右ノ指定ヲ為スコトヲ得ルニ於テハ第三者ニ委託シテ此指定ヲ為サシムルニ代テ又別ニ其自由ヲ拘束スル理由ナシトス故ニ本條第一項ハ

多数ノ立法例ニ倣ヒ被相續人ハ相續分ニ関スル前ニ條ノ準則アルニ拘ハラス隨意ニ共同相續人ノ相續分ヲ定メ又ハ之ヲ定ムルコトヲ第三者ニ委託シ得ベキ旨ヲ明示スト雖モ斯ノ如キ隨意處分ヲ以テ被相續人ノ生前處分ニ委スルトキハ種々ノ紛害ヲ生セシム

法典調査會

ハ虞アルニ因リ本案ハ右ノ處分ハ遺言ニ依リテ之ヲ為スヘキモノトシ且被相續人カ自ラ相續分ヲ指定セサル場合ニ於テ其相續人ニシテ適宜ニ之ヲ定メシムルトキハ徒ニ紛爭ヲ生シ或ハ分割ノ公平ヲ失フニ至ルヲ以テ被相續人カ相續分ノ指定ヲ他人ニ委託シ

ルニハ必ス第三者ニ之ヲ為スベキ旨ヲ明カニセリ其他被相續人又ハ第三者カ本條第一項ノ通則ニ依リ適宜ニ共同相續人ノ相續分ヲ指定スルコトヲ得ベキモ之カ為メ公私ノ利益ヲ保護スル為メ特ニ制定セラレタル遺留分ニ関スル規定ニ違反シ濫リニ之ヲ減殺セシムル如キハ固ヨリ許スベカラサル所ナルニ因リ本條第一項ハ特ニ但書ノ規定ヲ設ケテ其趣旨ヲ明ラカニセリ

被相續人カ本條第一項ノ規定ニ因リ共同相續人中ノ一人若シハ数人ノ相續分ノミヲ定メ又ハ第三者ヲシテ之ヲ定メシメルニ止マ

法典調査會

ハ場合ニ於テハ他ノ共同相續人ノ相續分ハ
如何ニ之ヲ定ムベキカニ付キ疑ヲ生セシム
ルニ足ル即チ斯ノ如キ一部ノ指定ハ無効ニ
帰スベキカ或ハ他ノ共同相續人ハ既ニ指定
セラレタル相續分ノ平均ニ依ルベキカ若シ
ハ平等ノ相續分ヲ受クベキカハ別然タラサ

法典調査會

ルカ如シ然レトモ右ノ場合ニ於テハ一方ニ
於テ既ニ被相續人ノ表示シタル意思ヲ無效
ニ帰セシムベキ理由ナク又他ノ一方ニ於テ
ハ被相續人又ハ第三者ニ依リテ相續分ヲ指
定セラレサリシ共同相續人ニ付キ法定ノ相
續分ニ関スル規定ヲ適用スベキハ最モ基礎

ヲ得タルモノト認ムルニ因リ本案ハ本年第
二項ノ明文ヲ設ケ左ノ共同相續人ノ相續分
ハ第十條及ビ第十一條ノ規定ニ依リテ
之ヲ定ムベキモノト為セリ

第千十三條

（理由）本條ハ各共同相續人カ受クベキ相續

法典調査會

分ノ務メテ公平ナラシコトヲ期シ且之ニ實
際上ノ便宜ト被相續人ノ意思トヲ斟酌シテ
制定シタル規定ニシテ從來多數ノ立法例ハ
之ヲ遺産ノ分割ニ關スル規定ニ於テ又ハ
其後ニ掲ケタル如シト雖モ本條ハ寧ロ相續
分ノ定方ニ關スルモノナレハ本案ハ之ヲ相

續分ニ関スル規定中ニ編入セリ

抑モ被相續人カ共同相續人中ノ或者ニ遺贈ヲ為シ或ハ生計ノ資本トシテ特ニ財産ヲ與フルコトハ常ニ見ル所ニシテ殊ニ共同相續人中ノ或者ヲシテ婚姻又ハ養子緣組ヲ為サシメ或ハ分家セシメ若クハ廢絶家ヲ再興セシムルハニ當リ之ニ相當ノ資財ヲ與フルコトハ普通ニ行ハルル所トス而シテ斯ノ如ク既ニ被相續人ヨリ遺贈又ハ婚姻ヲ受ケタル相續人ヲシテ更ニ遺産ノ分割ニ与ル他ノ共同相続人ト同等ノ法定相續分ヲ受クルコトヲ得セシムルニ於テハ分割ノ公平ヲ失シ且ツ

法典調査會

被相續人ノ意思ニ適セサルコト多カルベシ

且ツ遺産分割ノ場合ニ於テ豫贈物ノ處置ニ付キ種々ノ立法主義ノ存スル所以ニシテ或ハ法例ニ依レハ偏ニ分割ノ公平ヲ保タンカ為メニ受還ヲ又ハ受贈者ヲシテ盡ク豫贈物ヲ返還セシメントスト遺産ヲ合併シテ更ニ

法典調査會

各共同相續人ノ相續文ヲ定ムベキモノトシ他ノ立法例ニ依レハ被相續人ノ意思ノ存スル場合ニ限リテ豫贈物ヲ返還セシムベキモノト為スモ其間ニ於テ右ノ意思ハ必ス明示タルコトヲ要スト為スモノアリ或ハ黙示ノ意思ヲモ推測スベシト為スモノアルカ如シ

而シテ直ニ他ノ立法例ニ依シハ豫防物ハ敢テ之ヲ返還スルニ及ハスト為サリシ此等ノ立法主義ノ得失ヲ講ズルニ就テハ的返還主義ハ理論上公平ナリト雖モ実際上ニ於テハ永ク財産上ノ法律関係ヲ不確定ノ状態ニ存セシムルノミナラス親族間ニ於テ往々紛争ヲ生セシムル禁ヲ免レス又被相続人ノ意思ヲ重スル立法主義ハ頗ル妥当ナリト雖モ被相続人カ相続分ナルコトヲ明示シテ豫防ヲ為スコト極メテ少カルヘシ又其黙示ノ意思ヲモ推測スルキモノトセハ往々実際ノ事情ニ適セサル結果ヲ生スルノミナラス敢テ

場合ニ於テモ豫贈物ニ関スル法律関係ヲ永
ク不確定ノ状態ニ存セシムル弊ヲ免レザル
ベカラズ而シテ豫贈物ハ全ク之ヲ返還スルニ
及ハズト為ス立法主義ニ方リ或相続人ノ利益
ノ保護ニ偏シ遺産ノ分割上公平ヲ缺クモノ
タルヤト疑ナシ此ニ於テ李氏人條理ト
実際トヲ斟酌シテ本條ノ規定ヲ設ケ先ヅ其
第一項ニ於テ豫贈物ハ之ヲ返還スルニ及ハ
スト雖モ之ヲ受ケタル者共同相続人ノ相続
分ハ第千十條乃至第千十二條ノ規定ニ依リ
法律上又ハ任意上指定セラレタル相続分ヨ
リ遺贈又ハ贈與ノ價額ヲ控除シテ之ヲ定ム

ベキモノトシ之ニ依リテ現物返還ノ不便ヲ避クルト同時ニ分割上ノ公平ヲ保タシメメリ然レトモ本項ノ通則ハ固ヨリ強令的規定ニ非サレハ被相續人カ之ニ反對ノ意思ヲ表示スルコトヲ妨クベキモノニ非ス之レ本項但書ノ規定ニ依リテ此趣旨ヲ明カニスル所以ニシテ此場合ニ於テハ共同相續人中ノ或者カ既ニ遺贈又ハ贈與ヲ受ケタルモ其價額ヲ此者ノ受クベキ相續分ヨリ控除スルコトナシトス

本條第一項ノ場合ニ於テ遺贈又ハ贈與ノ價額カ受遺者又ハ受贈者ノ受クベキ相續分ノ

法典調査會

價額ヲ超ユルコトハ實際上往々生ハベキ事
実ニシテ此場合ニ於テ其超過額ヲ返還セレ
ムルヲ以テ最モ公平ヲ得タルモノト又知レ
トモ實際上ニ於テハ之カ為メニ受遠者又ハ
受贈者ニ意外ノ損害ヲ被ムラシムルノミナ
ラス容易ニ紛爭ヲ生シ徒ニ煩雑ヲ加フル虞
アルニ因リ本案ハ実際上ノ便宜ヲ斟酌シテ
特ニ本條第二項ノ規定ヲ設ケ右ノ場合ニ於
テハ受遠者又ハ受贈者ハ超過額ヲ返還スル
ニ及ハスト雖モ自己ノ受クベキ相續分ハ全
ク之ヲ受ケルコトヲ得ストシ之ニ依リテ法
律関係ヲ簡易ニ誘着セシムルコトヲ努メタ
リ

法典調査會

第千十四條

（理由）遺産ノ分割後ニ於テ各共同相續人カ其承受ケタル財産ヲ他ニ譲渡スコトハ固ヨリ各人ノ自由ニシテ假令遺産ノ分割前ト雖モ各共同相續人カ自己ノ受クベキ相續分ヲ他ニ譲渡スコトハ理論上敢テ之ヲ妨クベキ理由ナシ然レトモ分割前ニ於ケル相續分ノ譲渡ニ因リテハ三者カ共同相續人中ニ加ハルトキハ相續人間ノ和熟ヲ妨ケ稼ヲシテ不便ヲ生セシムル虞アルニ因リ二三ノ立法例ニ依レハ共同相續ノ場合ニ於ケル共有者ノ持分ハ普通ノ共有ノ場合ト異ニシテ之ヲ第

法典調査會

三者ニ譲渡スコトヲ得スト雖モ或ハ斯ノ如ク
外三者ニ譲渡スコトヲ禁スルニ至ラサルモ
時ニ其手續ヲ定メ且他ノ共同相續人ノ先買
權認メ之ニ依リテ第三者ニ先タヲ此者ニ譲
渡サレントスル相續分ヲ買取ルコトヲ得セ
シムルカ如キ無シトモ相續分ヲ第三者ニ譲

渡スコトヲ禁スル主義ハ偏ニ親族ノ和
熟ヲ計リ且ツ財産ノ融通ヲ妨ケ実際ノ
不便ヲ顧ミサルモノトスルヤ明カナリ又
相續分ヲ第三者ニ譲渡サントスル者以外ノ
共同相續人ノ先買權ヲ認ムル主義ハ無
償ニテ相續分ヲ譲渡サントスル場合ヲ包含

セサルモノナレハ卿オ権衡ヲ失スル嫌ヲ免レス故ニ本案ハ各共同相續人ハ分割前ト雖モ其相續分ヲ有償又ハ無償ニテ第三者ニ譲渡スコトヲ妨ケスト雖モ一方ニ於テハ第三者ヲシテ濫リニ共同相續人ノ間ニ加ハルコト勿カラシメンコトヲ務メ他ノ一方ニ於テハ被相續人ノ財産殊ニ祖先傳来ノ財産ノ如キハ務メテ相續人間ニ之ヲ保有スルコトヲ得セシメントスル趣旨ニ基キ特ニ本條ノ規定ヲ設ケ分割前ニ於ケル相續分ノ譲渡ニ付テハ他ノ共同相續人ハ其價額及ヒ費用ヲ償還シテ再ヒ右ノ相續分ヲ譲受ルコトヲ得

ヘキ旨ヲ認メタリ

本條ハ一項ノ規定ニ依リテ共同相續人ノ有スル權利カ存續スル間ハ相續分ヲ讓渡ケタル第三者ノ法律関係ハ不確定ノ狀態ニ在ルヲ此者ニ取リテ不利益ナルハ勿論斯ノ如キ法律関係ノ存續スルコトハ決シテ望ムベキコトニ非サルヲ以テ適當ノ時期ニ於テ之ヲ確定セシムルコトヲ要ス而シテ共同相續人ノ一人カ其相續分ヲ讓渡シタル事実ハ他ノ共同相續人ニ於テ容易ニ之ヲ知リ得ベキモノナレハ此等ノ者カ第三者ヨリ更ニ相續分ヲ讓受ケントスル時ハ速カニ之ヲ実行スヘキヲ

法典調査會

以テ至当トス且ツ即チ本條第二項ノ規定ヲ設クル所以ニシテ第一項ニ掲ケタル共同相續人ノ権利ハ一ヶ月内ニ之ヲ行使スルコトヲ要シ且此期間ハ相續分ノ譲渡アリタル時ヨリ之ヲ起算スルモノトス

第三款　遺産ノ分割

法典調査會

（理由）遺産ノ分割ハ共同相續ニ於ケル最終ノ處分ニシテ其方法効力等ニ関シテハ豫メ法律ノ規定ヲ設クルコトヲ要ス本款ハ即チ此等必要ノ規定ヲ網羅スルモノニシテ其詳細ハ各本條ニ就テ之ヲ説明スベシ

第千十五條

理由　被相續人カ遺言ヲ以テ各共同相續人ノ相續分ヲ定メ又ハ之ヲ定ムルコトヲ第三者ニ委託スルコトヲ得ベキコトハ既ニ第千十二條ニ於テ之ヲ認メタリ而シテ遺産分割ノ方法ノ如キモ亦敢テ被相續人ノ任意ノ指定ヲ妨グベキ理由ナキハ勿論タルノミナラス被相續人カ各相續人ノ性質目的其他種々ノ事情ヲ斟酌シテ或ハ二ハ不動産ヲ與ヘ或者ニハ金錢ヲ與ヘントスル如キハ最モ実際ノ事情ニ適スルモノナレハ勉メテ其指定ヲ自由ナラシムルコトヲ要スベシ本條ニ於テ被相續人ハ自ラ分割ノ方法ヲ定メ又ハ之ヲ

定めんコトヲ第三者ニ委託スルコトヲ厚ベキ旨ヲ認メル所以ナリト雖モ脳リニ被相續人ノ意思ヲ口実トシテ分割ノ方法ヲ定メ徒ニ紛爭ヲ生セシメンコトヲ慮ハリ本條モ亦第千九二條ノ如ク被相續人ハ本條ノ處分ヲ定ムルニハ必ス遺言ヲ以テスヘキモノト為セリ

法典調査會

第千九十六條

理由　本條ハ遺産分割ノ禁止ニ関スル規定ニシテ既ニ本案カ第二百五十六條ニ於テ共有ニ関シテ採用シタル主義ニ従フモノトス蓋シ共同相續人ハ第二百五十六條ノ規

定ニ從ヒ相互ノ契約ヲ以テ五年ヲ超エサル
期間内遺産ノ分割ヲ禁スルコトヲ得ルハ更
ニ疑ナシト雖モ被相續人カ遺言ヲ以テ分割
ヲ禁スルコトヲ得ルヤ否ヤニ付テハ諸同ノ
立法例ハ固ヨリ一ニ帰セス例ヘハ佛国民法
ノ如キハ各共同相續人カ遺産ノ不可分ヲ強

法典調査會

要セラルルコトナキ旨ヲ明カニスルニ反シ
普國々法索遜民法ノ如キハ二十年又ハ三十
年ノ長期間ニ於テ分割ヲ禁スルコトヲ得
ヘキ主義ヲ採用セルカ如シ而シテ実際上ノ
必要及ヒ便宜ヲ案スルニ被相續人カ遺産ノ
分割ヲ禁スルニ付キ正當ノ理由ノ存スル場

合法ニテ少カラサルニ因リ被相續人ヲシテ
分割ヲ禁ズルコト能ハサラシムルハ不当ノ
制限タルベシト雖モ禁止ノ期間ヲ過度ニ長
カラシムルコトハ又種々ノ紛糾不便ヲ免レ
サルベシ故ニ本案ハ改正第二百五十二條ニ
於テ共有者ハ五年ノ期間ヲ超エサル限ハ分

法典調査會

割禁止ノ契約ヲ為スコトヲ得ベキ旨ヲ認メ
タル例ニ倣ヒ本條ニ於テモ亦被相續人ハ遺
言ヲ以テ五年ノ期間ヲ超エサル限ハ遺産ノ
分割ヲ禁ズルコトヲ得トシ之ニ依リテ実際
ノ必要及ビ便宜ニ適セシメントス而シテ右期
間ハ相續開始ノ時ヨリ起算スベキモノタル

コトハ別ニ説明ヲ要セサル所トス

第千九十七條

（理由）本條ハ遺産分割ノ効力発生ノ時期ニ関スル現定ニシテ改成法典財産取得編第四百九十七條ト同一ノ主義ニ従ヒ相續開始ノ時ニ遡リテ分割ノ効力ヲ生セシムルモノトス

蓋シ共有ノ通則ヲ定ムルニ當リテハ本案ハ既ニ創定主義ニ依リテ分割ノ効力ヲ既往ニ遡ラシメサリシト雖モ遺産ノ分割ニ付テハ寧ロ認定主義ニ依リテ其効力ヲ既往ニ遡ラシムルノ至當ナルコトハ既ニ共有ニ関スル一般ノ説明ヲ為スニ當リテ之ヲ畧述セリ要

法典調査會

スルニ認定主義ニ依リテ分割ノ効力ヲ定ム
ルコトハ共同相續人ノ保護ニ厚クシテ債権
者其他第三者ノ保護ニ薄シト雖モ既ニ本案
ノ如ク遺産相續ニ付キ平分主義ヲ採用シタ
ル以上人分割ノ効力モ亦相續開始ノ時ヨリ
発生スルモノト為スヲ以テ至当ト認メザル
べカラザルノミナラズ共同相續ノ場合ニ於
テハ共有者ハ互ニ親族関係ニ立ツモノナレ
ハ其間ニ紛争ヲ生スルコト勿カラシメント
スルニハ認定主義ニ依リテ分割ノ効力ヲ定
ムルヲ以テ其当ヲ得タルモノトスベシ本案
ハ既成法典ト同一ノ主義ニ従ヒ本條ノ規定

法典調査會

ヲ設ケタル所以ナリ

第千十八條

（理由）本條ハ既成法典財産取得編第四百十八條ト同一ノ趣旨ニ基キ遺産分割ノ場合ニ於ケル共同相續人相互ノ擔保義務ノ規定セリ只既成法典ハ本案ノ如ク分割ノ効力ヲ既往ニ遡ラシムルニ拘ハラス廣ク分割前ノ原因ニ基ク分割物ノ妨碍及ト追奪ニ付キ互ニ擔保ノ責ニ任セシムルヲ以テ右ノ原因カ相續開始後ノモノニ係ルトキト雖モ擔保ノ責任ヲ生セシムルコトト為リ聊カ前後撞着スルヲ免アルニ因リ本案ハ相續開始前ヨリ存ス

法典調査會

ハ事由ニ付キ擔保ノ責ニ任セシムルモノト
シ且共有ニ關スル第二百六十一條ノ例ニ倣
フテ各共同相續分ニ應シテ賣主ト同シク擔
保ノ責ニ任スベキ旨ヲ明カニセリ

第千十九條

〔理由〕本條第一項ハ改成法典財產取得編第
四百十九條ノ字句ヲ修正シテ其意義ヲ明確
ナラシメ併セテ擔保ノ責任ハ各共同相續人
ノ相續分ニ應ズベキ旨ヲ明カニセリ蓋シ分
割ハ務メテ公平ナラシムルコトヲ期スルニ拘ハ
ラズ債權ヲ割當テラレタル者ハ債務者ノ無
資力ニ因リテ債權ノ實益ヲ收ムルコト能ハ

法典調査會

又從テ分割ノ不公平ヲ生スルコトアルヲ以テ他ノ共同相續人ヲシテ債務者ノ資力ヲ担保セシムルノ至當ナルコトハ更ニ辯明ヲ要セス而シテ本條第二項ノ規定ハ既成法典ニ存セサル所ナリト雖モ若シ此規定ナキトキハ第一項ノ通則ニ從ヒ分割ノ當時ニ於ケル

債務者ノ資力ヲ擔保スルニ止マルヲ以テ辯濟期日ニ於テ債務者カ無資力ト為ルモ他ノ共同相續人カ擔保ノ責ニ任セサル結果ヲ生シ分割ニ因リテ債權ヲ割當テラレタル相續人利益ヲ保護セントスル立法ノ本旨ヲ全フスルコト能ハサルベシ故ニ本案ハ既ニ債權

ノ慶主ノ擔保義務ニ関シテ規定シタル第五百六十九條第二項ノ例ニ倣ヒ特ニ本條第二項ノ規定ヲ掲ケタリ

(理由) 本條ハ共同相續人ノ擔保義務ニ関スル前二條ノ規定ノ結果ニシテ立法ノ本旨ハ分割ノ務メテ公平ナラシムルコトヲ期スルニ外ナラスト而シテ其規定スル所人数ニ本等カ連帶債務者中ニ償還ヲ為ス資力ナキ者ヲ生シタル場合ニ對シテ規定シタル所ト敢テ異ナル所ナキヲ以テ別ニ之ヲ設ケル必要ナシ

第千二十一條

(理由) 共同相續人ノ擔保義務ニ関スル前三條

條ノ規定ハ分割ノ公平ナランコトヲ欲シテ之ヲ設ケタルニ過キサレバ固ヨリ余令的ノ性質ヲ有スルモノニ非ス殊ニ被相續人ハ各共同相續人ノ相續分ヲ隨意ニ指定スルコトヲ得ルモノナレハ其相互ノ擔保ノ責任ノ如キ隨意ニ之ヲ指定シテ適宜ノ分割ヲ為スコトヲ得サルベカラズ是レ即チ本條ニ於テ被相續人カ遺言ヲ以テ前三條ノ規定ニ異リタル意思表示ヲ為スコトヲ得ベキ旨ヲ明カニスル所以ナリ